

第4章 豊かな心を育み 笑顔あふれるまち

(教育)

4-1 学校教育

12年後の目指す姿

感性を豊かに働かせながら、自らの可能性を発揮し生涯にわたって学び続ける人間育成のための、学校教育における授業の質の向上を図り、個人の様々な能力を開花することができる教育を目指します。

4年間の取組

中・長期の教育指針である佐倉教育ビジョンに基づき、基本理念や目指すべき市民像の実現に向けて、各種教育施策を実施します。また、佐倉を素材とした道徳教材の作成や読書活動の推進、社会人活用やキャリア教育などの指導プログラムを実施し、子どもたちの心の居場所となる学校づくりを推進します。

郷土佐倉に対する誇りや愛着を育むことを目的とする佐倉学を普及・定着させます。

◇成果指標

| 指標名 | 現状値 | 前期基本計画の目標値(2023年度) |
|----------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 学習状況調査における平均正答率 | 基礎学力81.3% 活用力70.3% | 基礎学力90.0% 活用力70.0% |
| 佐倉の歴史や自然に興味があると回答する児童生徒の割合 | 61.1% | 70.0% |

※学習状況調査の活用力については、考える力をより重視した問題構成にし、難易度を高めるため、目標を70%とする。

現状と課題

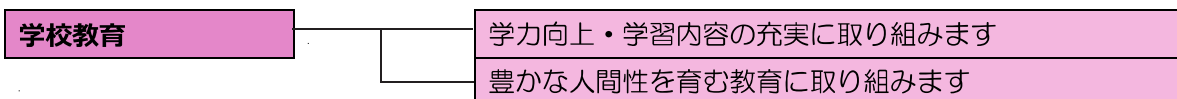
現状

- ・学習状況調査を実施し、基礎学力や活用力、学習等に関する意識を分析し、指導改善につなげています。
- ・佐倉の自然、歴史、文化、ゆかりの人物を題材とした佐倉学を市内全小学校において推進しています。

課題

- ・子どもたちの「生きる力」を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、問題解決的な学習の手法を取入れた授業改善に取り組む必要があります。
- ・急速なグローバル化や技術革新等により社会が大きく変化する中、将来、社会で活躍するために必要な能力を育む教育を推進していく必要があります。
- ・授業改善に向けた教職員の指導力の向上と、子どもたちの学習活動を支援する教職員等の配置が必要です。

施策の体系



施策の内容

学力向上・学習内容の充実に取り組みます

佐倉市教育センターを中心として、教育課題について調査・研究し、指導に反映させていきます。理科支援員の配置、及び小中学校の英語教育の充実に向けて外国人英語指導助手(ALT)の配置を継続して行います。また、子どもたちが意欲をもって学習にのぞめるよう、幼稚園・小学校・中学校の教職員の意識や指導力向上に努めます。

幼稚園・保育園から小学校への接続が円滑に行われるよう、小学校区単位の連携を図ります。

- 主な事業**：外国語教育の推進、教員の指導力の向上（教職員研修の実施、教育委員会等による定期的な学校訪問）、佐倉市学習状況調査の実施・分析、公立幼稚園の運営、小学校と幼稚園・保育園等との連携の推進、課題解決のための研究

豊かな人間性を育む教育に取り組みます

子どもたちが豊かな心を育み、人間としての生き方の自覚を深めることができるよう、子どもたちの多様な体験活動の充実を図ります。また、郷土佐倉に対する誇りや愛着度の向上、地域教育力の向上を図るため、佐倉の自然、歴史、文化、ゆかりの人物を題材とした佐倉学を推進します。

- 主な事業**：地域の社会人の活用、キャリア教育の推進、佐倉学の推進、校外学習事業

◇市民・地域への期待

- ・授業参観や運動会などの学校行事への参加
- ・家庭における教育環境の充実
- ・学習ボランティアや図書ボランティアなどの学校ボランティア活動への参加

◇関連する個別計画

| 計画名 | 計画期間 | 主担当課 |
|----------|-------------------|---------|
| 佐倉教育ビジョン | 2020年度～2031年度(予定) | 学務課、指導課 |

4-2 教育環境

12年後の目指す姿

老朽化が著しい学校施設の改修を計画的に実施するとともに、悩みを抱える子どもたちの支援体制を充実し、地域と連携を図りながら安全・安心して学ぶことができる教育環境の提供を目指します。

4年間の取組

老朽化した建物や設備を計画的に改修するとともに、情報機器等の整備など、時代の変化に対応した学習環境を整えます。

保護者や地域の方に学校に関する情報を積極的に提供し、保護者や地域の方とともに歩む学校運営を行います。また、障害のある子どもたちの態様に応じたふさわしい学習環境を提供するとともに、悩みを抱える子どもたちに対する相談・支援体制を充実します。

◇成果指標

| 指標名 | 現状値 | 前期基本計画の 目標値(2023年度) |
|-----------------------------|-------------------------|------------------------|
| 校舎・体育館のトイレ洋式化実施校数 | 0校 | 12校 |
| 学校ボランティアに協力したことがある 市民の割合 | 22.9% (2019年度市民意識調査) | 26.9% |
| 学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合 | 91.4% | 94.0% |

現状と課題

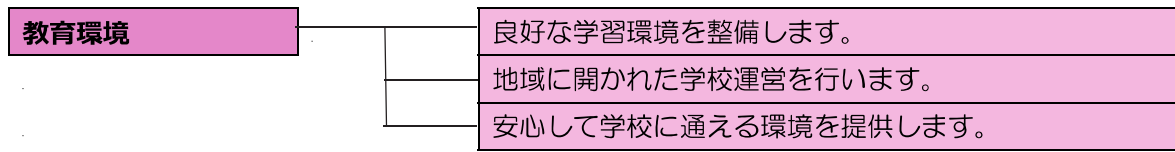
現状

- ・建築後40年を経過する建物が増えていくことから、老朽化した建物・設備を現代の利用状況に合うように改修する必要があります。
- ・障害のある子どもたちに対しては、その特性に合わせ、一人ひとりにふさわしい学習環境を提供しています。
- ・いじめ・虐待・経済的な理由により、就学等が困難となっている子どもたちに対する支援を行っています。

課題

- ・改修が必要となる建物・設備が多数あり、財源確保が課題です。
- ・特別な配慮が必要な子どもが増加しており、発達段階に応じたきめ細かな支援や関係機関のさらなる連携が必要です。
- ・子どもの悩みが多様化しており、様々な事由に早期対応できる相談体制の充実が求められます。
- ・全国的に、登下校時の児童生徒が被害者となる事故等が多発しており、引き続き通学路の安全対策を進めていく必要があります。

施策の体系



施策の内容

良好な学習環境を整備します

子どもたちが安全に安心して学習できる良好な教育環境を確保するため、老朽化した建物・設備について、国の補助制度を活用した改修等を行うとともに、特別な配慮が必要な子どもたちの支援体制の充実を図ります。また、時代の変化に応じた情報機器等に係る学習環境の整備を進めるとともに、自校式給食による安全・安心でおいしい給食を提供します。

●**主な事業**：小中学校の改修、学校備品の整備、特別な配慮が必要な児童生徒に対する支援、小・中学校情報機器整備事業、自校式給食による学校給食の提供

地域に開かれた学校運営を行います

保護者や地域との連携を図り、地域に開かれた学校づくりを進めるとともに、地域で子どもたちの安全・安心を守る環境づくりを推進します。

●**主な事業**：学校と地域の連携事業の充実、学校・保護者・地域との連携による登下校の安全見守り活動、教育ミニ集会の開催

安心して学校に通える環境を提供します

不登校やいじめなど、子どもや保護者の学校に関わる悩みに適時適切に対応するため、支援体制の充実を図ります。また、経済的な理由で就学が困難な子どもたちを支援するため、就学援助等により経済的な負担を軽減します。

●**主な事業**：いじめ防止対策、教育相談、就学援助

◇市民・地域への期待

- ・教育ミニ集会などの学校行事への参加
- ・登下校の見守り活動や学校清掃ボランティアなどの学校ボランティア活動への参加

◇関連する個別計画

| 計画名 | 計画期間 | 主担当課 |
|----------|-------------------|---------------|
| 佐倉教育ビジョン | 2020年度～2031年度(予定) | 教育総務課、学務課、指導課 |

4-3 生涯学習

12年後の目指す姿

市民の学習ニーズに対応した事業を提供するとともに、生涯学習環境を整備し、多くの市民が様々な学習活動に参加し活力あるまちの実現を目指します。

4年間の取組

活力あるまちの実現に向け、各種社会教育事業を提供し、地域人材の育成を推進します。また、公民館・図書館といった社会教育施設の整備を総合的・計画的に進めます。

◇成果指標

| 指標名 | 現状値 | 前期基本計画の目標値(2023年度) |
|------------------------------|-------------------------|--------------------|
| 生涯学習施設及び学習内容が充実していると答えた市民の割合 | 20.0% (2019年度市民意識調査) | 24.0% |
| 公民館を年に1回以上利用している市民の割合 | 25.7% (2019年度市民意識調査) | 29.7% |
| 図書館を年に1回以上利用している市民の割合 | 51.2% (2019年度市民意識調査) | 55.2% |

現状と課題

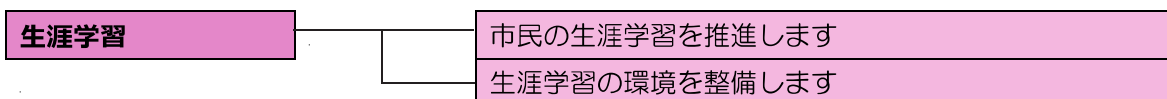
現状

- ・誰もが参加しやすい各種事業を提供しています。
- ・市民カレッジ等を開設し、地域で活躍する人材の育成に取り組んでいます。
- ・少子高齢化の進展や働き方改革などといった社会情勢の変化により、公民館や図書館の利用者が減少傾向にあります。
- ・公民館や図書館においては、老朽化している施設があります。

課題

- ・多様な学習ニーズに対応し、時代を捉えた生涯学習の機会を更に提供することが課題です。
- ・学びの成果を地域へ還元する取組を更に進めていくことが課題です。
- ・公民館や図書館の利用者が減少していることが課題です。
- ・施設の維持管理や整備を計画的に進め、利便性を更に高めていくことが課題です。

施策の体系



施策の内容

市民の生涯学習を推進します

市民の多様化する学習ニーズ(健康・国際化・環境問題・情報化等)に対応し、時代を捉えた学習機会を提供します。

市民が参加しやすい講座の開設や郷土資料の収集・活用などを通して、佐倉学を推進します。

家庭教育に関する学習機会の提供や啓発を行います。

生涯学習活動で得られた知識や技能をボランティアとして、地域活動に活かすことができる取組を実施します。

様々な情報発信により、市民の生涯学習に関する関心や参加意識の向上に努めます。

●**主な事業**：公民館、図書館における学習機会の提供、市民カレッジ・コミュニティカレッジ事業等による地域の担い手育成につながる学習支援の充実、佐倉学の推進

生涯学習の環境を整備します

市民に利用しやすい生涯学習活動の場として、施設を提供します。

公民館や図書館など社会教育施設の効率的な管理・運営や、老朽化した施設の改修などによる環境整備を図ります。

●**主な事業**：公民館・図書館の管理運営事業、(仮称)佐倉図書館等新町活性化複合施設整備事業

◇市民・地域への期待

- ・各種社会教育事業等への参加
- ・自己実現・自己成長に努め、さらに地域への愛着や帰属意識を高めること
- ・主体的なまちづくりへの参画

◇関連する個別計画

| 計画名 | 計画期間 | 主担当課 |
|----------|-------------------|-------|
| 佐倉教育ビジョン | 2020年度～2031年度(予定) | 社会教育課 |

4-4 青少年健全育成

12年後の目指す姿

子どもたちの健やかな成長を支援するため、学校・家庭・地域の連携が進み、地域の青少年健全育成の体制が整っていることを目指します。

4年間の取組

学校・家庭・地域とより一層の連携のもと、地域の青少年健全育成活動を推進します。また、青少年健全育成のための団体支援や青少年活動の担い手を育成し、子どもの自主性・創造性・社会性を育むための事業を展開します。

◇成果指標

| 指標名 | 現状値 | 前期基本計画の目標値(2023年度) |
|--|------------------------|--------------------|
| 青少年健全育成団体の取組について、「よくなった」、「まあまあよくなった」と回答した市民の割合 | 5.5% (2019年度市民意識調査) | 15.0% |

現状と課題

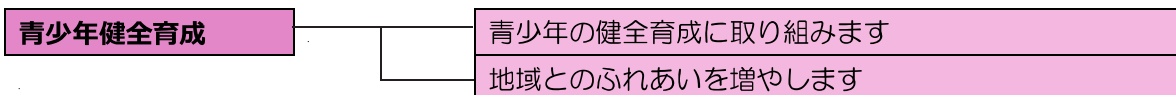
現状

- ・青少年を取り巻く環境は、少子化や核家族化の進行、地域の希薄化が進展し、様々な価値観の中で家庭や地域で子どもたちを育てることが難しくなっています。また、スマートフォンの普及に伴うネットトラブルの増加や危険ドラッグ、子どもたちの貧困など新たな課題も発生しています。
- ・少子化や価値観の多様化等により、子ども会等の青少年育成団体への加入者は減少傾向にあります。

課題

- ・学校だけでなく、家庭や地域において青少年が種々の体験や活動を通し、コミュニケーション能力や物の見方、規範意識など、生きる力の基礎を身に付けていける環境を整備する必要があります。
- ・青少年を支える地域団体の役員の高齢化が進んでおり、活動を担うべき次の世代に地域活動への関心を促し、主体的な活動の担い手を育成する必要があります。

施策の体系



施策の内容

青少年の健全育成に取り組めます

青少年育成計画を基に、関係機関・関連団体とともに青少年を取り巻く環境についての課題を共有し、家庭・学校・地域が連携して青少年育成を推進します。そのために、地域の中で、青少年の健全育成に向けて活動している青少年育成市民会議や青少年相談員、子ども会などの活動を支援します。

- 主な事業**：青少年育成市民会議、青少年相談員連絡協議会、子ども会育成連盟、ボーイスカウト・ガールスカウト育成会等への支援、青少年施設の整備・管理運営

地域とのふれあいを増やします

青少年の将来の成長の糧となるような生活体験や社会体験、自然体験などの直接体験の場を提供する中で、青少年と地域が交流する機会を作り、地域の中で顔の見える関係作りに努めます。

また、成人式運営委員会やジュニアリーダー活動等への参加を通じて、青少年が市の事業に参加する機会をつくります。

- 主な事業**：青少年健全育成イベントの開催、成人式運営委員会の設置

◇市民・地域への期待

- ・青少年育成活動への参加
- ・青少年育成団体と他団体との連携
- ・魅力ある青少年健全育成活動の展開

◇関連する個別計画

| 計画名 | 計画期間 | 主担当課 |
|---------------|---------------|--------|
| 第4次佐倉市青少年育成計画 | 2020年度～2025年度 | 児童青少年課 |

青少年育成市民会議の活動紹介





4-5 スポーツ振興

12年後の目指す姿

市民体育大会や佐倉朝日健康マラソン大会、各種スポーツ教室など市民のニーズを取り入れたイベントの開催やスポーツ施設の充実を図り、多様な市民がスポーツに親しむまちの実現を目指します。

4年間の取組

市民体育大会や佐倉朝日健康マラソン大会、各種スポーツ教室の開催・充実により、スポーツや身近に楽しめる運動などを通じた日常的な心と体の健康づくりを促進します。また、スポーツ施設・設備の修繕・改修を行い、適切に管理・運営することにより利用者の利便性を維持・向上します。

◇成果指標

| 指標名 | 現状値 | 前期基本計画の目標値(2023年度) |
|------------------------|-------------------------|----------------------|
| 成人市民の週1回以上のスポーツ実施率 | 48.9% (2019年度市民意識調査) | 60.0% |
| 運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合 | 小学生65.7% 中学生56.4% | 小学生70.0% 中学生65.0% |

現状と課題

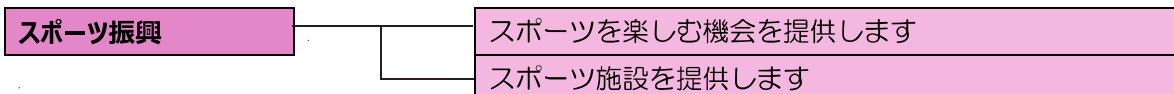
現状

- ・「週1回以上スポーツをする成人の割合」が近年、減少傾向であり、また、若い年齢層や女性でその傾向が顕著となっています。
- ・全国的に、スポーツをする子どもとしない子どもの二極化傾向があります。
- ・市民体育館などの施設の老朽化の進行、また、岩名運動公園の駐車場不足が発生しています。

課題

- ・体験教室や学校の授業などを通じて、若年層や子どもたちに体を動かす楽しさなどを感じてもらう必要があります。
- ・老朽化した施設は、障害者や高齢者に配慮したバリアフリー化やユニバーサルデザイン化など、市民のニーズを踏まえ改修などを進めていく必要があります。また、駐車場不足は、利用者同士の乗合せや公共交通機関の利用を奨励し、解消に努める必要があります。

施策の体系



施策の内容

スポーツを楽しむ機会を提供します

市民の健康・体づくりにつながる生涯スポーツの普及や、競技力向上の支援に努めます。そのために、スポーツに対する市民のニーズを把握し、する・みる・ささえる機会を提供します。

●**主な事業**：各種スポーツイベントの開催、スポーツボランティア・指導者の育成

スポーツ施設を提供します

市民が身近な場所で、安心してスポーツに励み、楽しめる施設を提供します。また、国際的なスポーツ大会に臨む国内外の団体の利用も想定した、施設環境の充実を検討します。

●**主な事業**：スポーツ施設の整備・管理運営

◇市民・地域への期待

・身体を動かすことの楽しさや重要性を認識し、スポーツ活動に取り組むこと

◇関連する個別計画

| 計画名 | 計画期間 | 主担当課 |
|----------------------------------|-------------------|---------|
| 第5次佐倉市スポーツ推進計画 | 2017年度～2020年度 | 生涯スポーツ課 |
| 佐倉市健康増進計画「健康さくら21（第2次）」 【改訂版】 | 2013年度～2022年度 | 健康増進課 |
| 佐倉教育ビジョン | 2020年度～2031年度(予定) | 指導課 |



・ニュースポーツまつり(6月)



・佐倉朝日健康マラソン大会(3月)

4-6 高等教育機関等との連携

12年後の目指す姿

高等教育機関等との連携協力により、佐倉市における様々な課題(定住・交流人口対策、良好な住宅・住環境の維持・向上、産業の活性化、健全・持続可能な財政運営の推進)が適切に解決されていることを目指します。

4年間の取組

専門的見地を要する地域課題の解決に向け、連携協定締結済みの大学との更なる連携・協力を推進するとともに、新たな高等教育機関等との連携を目指します。

◇成果指標

| 指標名 | 現状値 | 前期基本計画の目標値(2023年度) |
|---------------|-------|--------------------|
| 高等教育機関等との協働事業 | 122事業 | 140事業 |

現状と課題

現状

・学校法人女子美術大学、学校法人順天堂、学校法人東邦大学、千葉敬愛短期大学、東京情報大学、敬愛大学、東京大学大学院農学生命科学研究科、日本大学生産工学部、津田塾大学との連携協定を締結し、佐倉市が抱えている様々な課題に対する取組を行ってきました。

課題

・高等教育機関等との協働事業を継続し、常に充実した事業内容となるよう、協力関係を維持、推進していく必要があります。

施策の体系

高等教育機関等との連携

高等教育機関等との連携・協力を推進します

施策の内容

高等教育機関等との連携・協力を推進します

多様化する地域課題の解決に向け、高等教育機関等の専門的知見による協力を得て、これまでの連携事業の拡充に努めるとともに、教育・文化の振興、人材育成など様々な分野において、新たな協力体制の構築を図ります。

●**主な事業**：高等教育機関等との協働事業の実施、新たな高等教育機関等との連携協定の締結

◇市民・地域への期待

・地域課題の解決に資する、高等教育機関等との連携事業への参加



複数大学と連携して開催した公開講座



手術体験セミナー

